



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

UAE : アブダビ領海の警備強化に関する政府要人発言

(27日付ナショナル紙)

27日付現地英字紙ナショナルによると、重要国家インフラ庁（CNIA）のファーリス・マズルーイー長官らは、アブダビ首長国の領海内を航行する石油タンカーが危険を察知し、要請があった場合、タンカーを護衛するといった必要な保護を行うなどと述べた。

1. マズルーイーCNIA 長官は、CNIA が海上の前線の警備強化のために連邦軍のヘリを空挺部隊に編入させたのを受け、「我々はアブダビ首長国の領海に責任を持っており、保護のスキームは ISPS（国際船舶および国際港湾施設の保安確保）コードに従って行われ、いずれかの企業や政府機関がセキュリティレベルを上げた場合、我々はそのレベルを実現することに完全な責任を負う」と述べた。

2. ISPS コードは、9.11 同時多発テロに伴う海運業への脅威を受け発展した国際的な措置で、船舶は攻撃の脅威がある場合、このコードに従って地元当局に対して、より高いレベルの警戒・安全確保を求めることができる。

3. CNIA のオペレーション担当のイスハーク・バシール局長は、「いずれの国のタンカーでも危険を察知した場合、CNIA の関係部署に警戒レベルを上げるよう通報すれば、我々は必要な保護を提供する」と述べた。

他方で、同局長は、7月の日本のタンカーに関する事案は UAE の領海外で起きたことを強調しつつ、それ以降もより高いレベルの警戒を求める通報は増加していないと述べた。また同局長は、「CNIA は（UAE 連邦軍に言及しつつ）上層機関とともにあり、もし彼らが我々に船舶を護衛するよう言えば、また追加的な安全確保のためのオペレーションを行うよう指示があれば、我々はそれを実行するだろう」と述べた。

6. CNIA は、2007年5月に大統領令で発足した機関で、現在はアブダビ首長国の重要資産やインフラの保護・警備を行っているが、将来的には他の首長国にも活動を広げることを目指している。陸上戦力および空挺部隊を持ち、アブダビ沿岸警備隊も編入させ、陸上および海上石油施設など重要施設の安全確保や UAE の核エネルギープログラムの安全対策にも責任を負っている他、海上での緊急事態の通報を受ける海上安全ホットライン「996」番の運用を行っている。